

第88号【2015/3/1発行】

発行元：昭和大学横浜市北部病院

●卷頭言

『消化器センターの歩みと現状』
消化器センター 工藤進英 センター長

- 医師の配属・異動・退職
- 診療統計
- TOPICS
- コメディカルリレー紹介
- 北部イベント
- 患者さんへのお知らせ



もうすぐ春ですね（福寿草）

卷頭言

『消化器センターの歩みと現状』



消化器センター
工藤 進英 センター長

昭和大学横浜市北部病院消化器センターは創設14年目となります。北部病院は、2001年（平成13年）、地域の病院・診療所などとの信頼関係をベースにして、地域の患者さんのための医療を推進するという大目的のもと設立されました。大学病院ですから、高度で安全な診療、優れた世界的な研究、将来の優秀な医師を育てるための学生や研修医教育に対する充実した教育が必要です。私は、1) 内科・外科の区別なく診療する体制、2) ペーパーレスの完全電子化の方針を謳い、最新の医療機器を用いた最先端の医療の追求とグローバルな研究・教育機関を創ることをセンターの理念として掲げ、15年間これまで走り続けてまいりました。内科・外科の垣根を取り払い診断と治療を一貫して行うセンター方式が、診断・治療のうえで字義どおり生かされている施設は、当時はもとより今日でもまだ極めて少ないので日本の現状です。

センター創設時は、私を筆頭にして、田中淳一助教授（現在藤が丘病院教授）以下13名によるスタートでした。その後人数が増えましたが、今回江東豊洲病院の発足とともに、井上晴洋教授をはじめ少なからずの医局員が移動したほかに、藤が丘病院や本院へ異動した医局員など多数にのぼりました。食道疾患や胃疾患の診断・治療をはじめ、それまでの臨床実績に少なからぬ影響があったのは否めません。しかし現在では60名近い医局員で“ピンチはチャンス”的な考え方があり、非常に活発に本来の消化器センターの理念に従い、診療・研究・教育を展開しています。

近年、他大学や外国からの、臨床的に治療困難な紹介患者さんが増えています。このようななかで、診療実績は内視鏡治療数で全国1位（週刊朝日MOOK「いい病院2014」）、腹腔鏡的大腸切除数では神奈川県1位、全国5位の成績（読売新聞『病院の実力一覧』医療機関の大腸がん治療）となりました。

適切な治療を行うためには正確な診断が不可欠です。私が開発した拡大内視鏡による大腸癌拡大ピットパターン分類は、WHOはじめ世界中の大学病院などに掲示されています。また、我々は内視鏡で最終診断ができる一病理検査なしで一倍率450倍の超拡大内視鏡（エンドサイトスコピ）の開発・臨床応用を進めています。この内視鏡についての報告は、「革命的な内視鏡、革命的診断法」として世界でもセンセーションを巻き起こし、当院が大きく注目を浴びています。米国やヨーロッパなどの国際学会でも多くの発表を行い、これまで医局員は数多くのグランプリや表彰を受けてきました。本年5月の米国消化器病学会（DDW）には11名の演題が採択されています。

毎年行っている国際消化器内視鏡セミナー（横浜ライブ）では、海外から多くの内視鏡医が集まり、最新の診断と内視鏡治療の指導とディスカッションを行っています。それらが評価されたのか、世界内視鏡学会が選ぶ世界ベスト16（日本では唯一）の施設に選ばれました。昭和大学に対するこの評価は、医局員の努力のみならず院内各部署の絶大な協力に因るもので、ありがたい限りです。

当消化器センターは困難な経験もしましたが、創設15年、おおむね順調に成果を上げることができたと思っています。医局員たちの意気は引き続き軒昂なものです。しかし、組織が停滞するのは、成功の連続体験が往々にして慣れと慢心を呼び、緊張を欠いた集団になることがあります。停滞は退歩です。私どもは地域医療も含めて、さらに前進を目指したいと願っています。皆様のご協力を引き続きお願い致します。

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2015年2月～3月

【附属施設より】



小寺 志保
(麻酔科)
昭和大学病院
麻酔科より

【配置転換】

木田 裕之 (救急センター ⇒ 消化器センター)

異動 退職医師

2015年2月～3月

【附属施設へ】

・尾頭 希代子 (麻酔科 ⇒ 昭和大学病院 麻酔科) 　・野垣 岳穂 (耳鼻咽喉科 ⇒ 藤が丘病院 耳鼻咽喉科)

【退職】

・島田 誠 (女性骨盤底再建センター)	・菊岡 修一 (緩和医療科)	・伊藤 篤志 (循環器センター)
・三雲 仁 (整形外科)	・平田 昌敬 (循環器センター)	・志村 智隆 (耳鼻咽喉科)
・岩本 梢 (麻酔科)	・馬上 達也 (整形外科)	・久保田 豊 (整形外科)
・王 興栄 (整形外科)		

診療統計

2014年12月～2015年1月統計データ()内は1日平均

診療実日数 12月 (入院: 31日・外来: 23日)、1月 (入院: 31日・外来: 23日)

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
12月	30,057人(1,306.8人)	17,229人(555.8人)	453件(15.1件)	668件(35.2件)
1月	28,108人(1,222.1人)	16,482人(531.7人)	390件(13.0件)	607件(31.9件)

TOPICS

荏田南中学校の生徒が職業体験をおこないました

平成27年1月22日(木)から23日(金)、横浜市立荏田南中学校の2年生4名が当院で職業体験をおこないました。

施設の見学や放射線室での体験、病棟での看護師業務の体験などを行いました。それぞれの部署で、意欲的に体験に取り組んでいる姿が印象的でした。

写真は、病棟での看護師体験の様子です。



北部病院ワークショップを開催しました

平成27年2月6日～7日にオンワード総合研究所にて平成26年度北部病院ワークショップを開催しました。『北部病院の救急医療体制』をテーマに、各職種から集まった22名の参加者が検討を進め、グループごとに、救急医療の体制における問題点、それについて具体的な解決策を検討しました。それぞれの職種の視点から意見を出し合い、より良い病院となるよう話し合う良い機会となりました。



北部イベント

都筑区合同防災訓練に参加しました

平成 27 年 2 月 7 日に都筑区合同防災訓練に参加しました。当院では、区役所に設置された災害対策本部との無線を用いた情報伝達訓練や、休日夜間診療所に設置された救護所から搬送された重症患者を受け入れる訓練を行いました。

今後も災害拠点病院として、地域との連携を強化するため訓練を行っていく予定です。写真は救護所の様子です。



聴覚障害者の医療講演会を開催しました

1 月 24 日（土）、当院西棟 4 階講堂におきまして、聴覚障害者の医療講演会を開催いたしました。今回の公開講座は『当院で行っている骨粗しょう症の治療』、『禁煙外来について』の 2 テーマで、要約筆記と手話による通訳を行いました。参加者からは、「手術の話を聞く機会はなかなか無いのでとてもためになつた」、「今回の話を聞いて、家族にも禁煙を勧めたいと思う」といった感想をいただきました。平成 27 年度開催分につきましては、詳細が決まり次第、院内掲示・ホームページ等でお知らせ致します。



接遇に関する講演会を開催しました

2 月 18 日（水）、当院のスタッフを対象に接遇の講演会を行いました。『不安を安心に、不満を満足に』という演題で、元客室乗務員の勝亦氏にご講演いただきました。100 名以上のスタッフが受講し、患者さんやご家族と接する時のマナーや対応について学びました。

今後も皆様が安心して通っていただける病院を目指して、このような講演会を行っていく予定です。



患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見・ご要望に関しましては、関連する部署の責任者に報告し改善に努めています。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近多くいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させて頂きました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
マスクをしたまま対応されると声が聞き取りにくいことがある。対応が冷たく感じる。	感染症等の対策のため、職員はマスクを着用したままご対応させていただいておりますのでご了承ください。着用時は声が聞き取りづらくなること、冷たい印象を与える可能性があるためことなどを各部署で周知し、はっきり話すことや、目を見て話すようにするなど教育して参ります。

コメディカルリレー紹介 vol.5 〈臨床病理検査室(検体系検査)〉

このページでは、病院内の部署・職種を順番に紹介しています。

中央棟3階の手術室やICUに囲まれた臨床病理検査室には緊急、輸血そして病理の各検査室が配置されています。ここでは、患者さんから採取された血液や細胞などの「検体」を検査材料に検査を行っています。このたび、手術室増室に伴う検査室縮小工事に伴い、検体検査の大部分および病理・細胞診検査の標本作製・診断業務は南棟2階への移転を行いました。

●生化学など「検体検査」全般については2001年の開院以来、株式会社ビー・エム・エルが検査業務を受託しています。昨年10月には中央棟3階の検体検査室の大部分を南棟2階に移設し、昭和大学BMLとして登録衛生検査所となり、総勢25名のスタッフで検査業務に当たっています。中央棟3階には緊急検査室を設置し、南棟への検体搬送の中継点と夜間休日の緊急検査を行う検査室となりました。日中約4名の職員を配置し、毎日外来や病棟から提出される約800名分の検体（約11,000項目分）のほとんどを南棟に搬送して検査を行っています。また、尿検査のほとんどは緊急検査室内で検査を実施しています。夜間や休日などの時間外に提出される検体は南棟には搬送せず、担当技師2名により緊急検査室内で検査を実施しています。診察前検査など急ぐ検査は1時間以内に報告すべく日夜奮闘しています。



■輸血検査室は病院内の輸血の全てを取り扱う部署で、主な業務は輸血検査と血液製剤の管理であり、専任の臨床検査技師5名と兼任技師2名および委託技師2名の体制で行っています。輸血検査は輸血が安全に行われるための検査で、血液型、不規則抗体、交差適合試験が主要な検査になります。血液製剤管理は日赤血液センターへの発注、在庫管理、使用部署への払い出し、自己血管理そして使用記録管理が主な業務です。

輸血の血液製剤は日赤血液センターから供給される献血で得られた血液と患者さん自身から採血した自己血です。2014年には約1,000人の患者さんに献血血液約4,000本と自己血600本が使用されましたが、輸血による事故は1件も発生していません。これらの業務を24時間体制で行い、いつでも輸血が必要な患者さんに対応できる体制をとっています。



◆病理検査室では年間約9,500件の組織検査標本の作製と約5,000件の細胞診検査の標本作製および診断を臨床検査技師5名、非常勤技師2名で行っています。

検査室の目標は「診断報告時間の短縮」と「診断精度の向上」で、生検検体については極力生検施行日の翌日には標本を完成しています。また、細胞診検査の穿刺吸引細胞診では標本の処理と固定が診断精度に大きな影響を与えるため、直接病理の技師が検体採取の場に出向いて標本を作製しています。なお、2月末より中央棟3階病理検査室は主に検体の提出場所と手術中の迅速病理検査を行う「迅速病理検査室」となりました。移転後も部内目標「診断報告時間の短縮と診断精度の向上」は継続維持し、診療に貢献したいと考えています。



患者さんへのお知らせ・お願ひ

総合相談センター通信 vol.21《北部病院オストメイトサロンのご案内》

当院では、専門の看護師が、患者さんの悩みを共有する場を定期的に設けています。がん患者さんを対象にした「がん患者サロン」、当院でストーマ造設された患者さんを対象にした「北部オストメイトサロン」などがあります。“ストーマ”、“オストメイト”と聞いたことはありますか？聞きなれない方が多いと思われますので、今月の総合相談センターではオストメイトサロンについてご案内致します。

■オストメイトとは？

オストメイトとは、がんや炎症性疾患、事故などにより消化管や尿管が損なわれたため、腹部に排泄のために消化管・尿路系の一部を排泄口（ストーマ（人工肛門・膀胱））として造設した患者さんをいいます。人工肛門と表現しているため機械や器具を取り付けていると誤解されているのが現状です。ストーマは 外見ではわかりづらいため、様々な場面でつらい思いをするオストメイトの方がいらっしゃいます。（ストーマは排泄口を自分でコントロールできないため装具を使います。ほとんどのオストメイトの方が、お腹につけた装具で便や尿を溜めて処理しています。）



■オストメイトの方の声で

外来1階、2階のゆったりトイレ内に「オストメイト専用トイレ」

が設置されました。

■オストメイトサロンの活動について

オストメイトサロンは患者代表の方を中心に患者さんが主体となって開催しています。

- ・オストメイトの方が自分の意志で、自由に参加できる集いを持つ。
- ・先輩・後輩オストメイトが交流の場で情報交換ができる。
- ・ストーマを受け入れながら、前向きに明るく日常生活を送ることができる。
- ・胸の内を話すことでのサポートを行っています。

～『昭和大学横浜市北部病院オストメイト会』(患者会)のご案内～

参加対象者：当院でストーマを造設された方、またはその家族

開催日時：平成27年度(4/4、7/4、10/3、12/5)第1土曜日

時間・場所：11:00～14:00 中央棟9階 第5会議室

参 加 費：無料

問い合わせ先：昭和大学横浜市北部病院 看護部宛



皮膚・排泄ケア認定 看護師とは？

皮膚・排泄ケア認定看護師資格者
山根 麗子、八尾 早希子

「創傷のケア」・「ストーマ（人工肛門・人工膀胱）のケア」、「失禁のケア」などを専門に行う看護師のことです。皮膚にトラブルが生じやすい方へのスキンケアや、排泄に伴い生じる問題に対するケアを専門的に行います。寝たきりによる褥瘡の予防や創傷の治癒を促すケアを行ったり、ストーマを造設した患者さんに対してストーマ装具の選択や退院後の生活を含め、患者さんの療養上の不安や悩みに応え、問題の解決に取り組んでいます。

患者さんへのお知らせ

たばこの危険性

「タバコ」を吸っている人より怖い受動喫煙！

がんの要因となっている“タバコ”ですが、「タバコを吸わなければ良い」というイメージをお持ちになっている方も多いいらっしゃると思います。しかし、タバコから出る「副流煙」が非常に恐ろしい物質ということはあまり知られていません。そこで今回は禁煙指導のスペシャリストである耳鼻咽喉科の門倉義幸先生に色々聞いてみたいと思います。

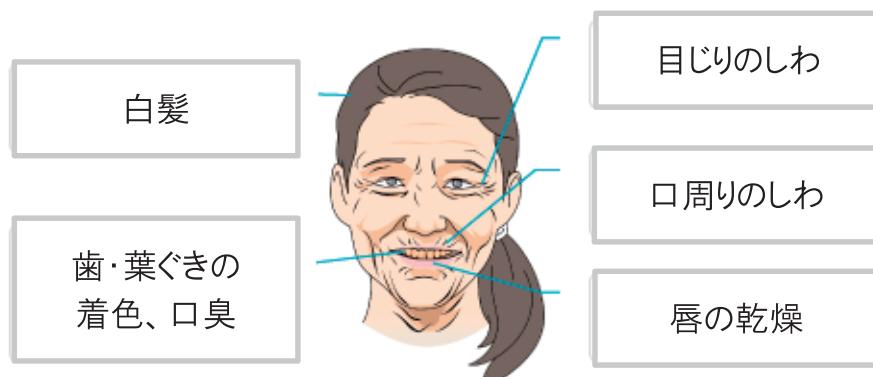
教えて
○○先生！



Q1、タバコにはどんな「害」があるんですか？

タバコの煙には、5,300種類以上もの化学物質が含まれており、そのうち、発がん性物質は、なんと70種類も含まれていると言われています。

また、タバコを吸っていると皮膚のハリがなくなってきて、目じり・口周りなどのしわが増えます。そのため、実際の年齢よりも老けて見えます。このような喫煙者に特有の顔を「スモーカーズ フェイス」といい、しわに加え、歯や歯ぐきの着色、口臭、白髪、頭髪の脱毛なども伴います。



Q2、タバコの煙は吸ってる人にしか害はないの？

タバコの煙には、喫煙者が直接吸い込む「主流煙」と、点火部から立ち上る「副流煙」があります。有害成分は低温の不完全燃焼時により多く発生するため、副流煙は主流煙よりも多量の有害物質を含むことが知られています。また、喫煙者が吸い込んだ後に吐き出す煙を「呼出煙」と呼び、副流煙と合わせて「環境タバコ煙」と言います。

受動喫煙＝副流煙＋呼出煙（環境タバコ煙）



耳鼻咽喉科 准教授

門倉 義幸先生

禁煙指導の専門家

Q3、タバコって「いつでもやめられる」んですよね？

タバコの煙に含まれるニコチンは、麻薬にも劣らない依存性をもつ薬物で、ニコチンはヘロインと同じくらい、やめるのが難しいと言われています。「ニコチン依存症」とは、やめたくてもやめられない喫煙行動のことをいい、治療が必要な病気とされています。

《世界の怖い禁煙ポスター》



タバコの「分煙」って意味無いの！？

Q4、「分煙」って空気を分けるものですか？

世間一般で言われる禁煙席とは「タバコを吸ってはいけない席」という意味で、決して「タバコの煙が流れてこない席」ではありません。ファミリーレストランなどのように同一空間のフロアで禁煙席と喫煙席を分ける方法を一般的に「不完全分煙」と呼んでいます。それに対し、喫煙席を個室のようにガラスで囲い、空間を完全に分けた分煙を「完全分煙」と呼びます。完全分煙であれば、禁煙席に座れば安全と考える方が多いですが、空気の汚染レベルを測定した結果から「完全分煙は不可能」と証明されていますので、飲食店では喫煙スペースの無い完全禁煙店を利用しましょう。

完全禁煙を実施している飲食店の割合が増えてきていることは、非常によいことだと思います。

～活動・取り組み～

地域へのイベント等に参加し、禁煙活動、受動喫煙防止に向けた取り組みを実施しています。

《区民まつりでの取り組み》 《地域医療連携フォーラムで講演》



《高校でのイベントで啓発》

取組が新聞に掲載されました。

八重山保健所
八重商工で門倉氏が講話
たばこ1本で寿命14分縮む

八重山保健所
八重商工で門倉氏が講話
たばこ1本で寿命14分縮む

八重山保健所
八重商工で門倉氏が講話
たばこ1本で寿命14分縮む

夫の喫煙について家族から相談を受けている門倉先生(上)

「タバコクイズ」を出題し、アンケートに答えてもらいました(下)



患者さんへのお知らせ

市民公開講座/映画上映会を開催します

当院では、平成 27 年 3 月 14 日（土）に市民公開講座と映画上映会を以下の内容で開催いたします。
皆様奮ってご参加ください。

「大腸がんでは死なせない」

講師：工藤 進英（昭和大学横浜市北部病院 消化器センター長）

●日時：平成 27 年 3 月 14 日（土）13 時～14 時 30 分

●場所：昭和大学横浜市北部病院 西棟 4 階講堂

●受講料：無料

●予約：メールまたは FAX で事前申込制 定員 200 名 3 月 11 日締切

申込先 FAX 番号：045-949-7137 メールアドレス：hokubu@ofc.showa-u.ac.jp

映画上映会「ヒロシマの校庭から届いた絵」

◆日時：平成 27 年 3 月 14 日（土）15 時～17 時

◆場所：昭和大学横浜市北部病院 西棟 4 階講堂

◆参加費：無料

◆予約：不要 先着 180 名

◆問合せ：事務局長：福富（携帯：080-5524-6091、メール：fukutomi@tk2.so-net.ne.jp）

9Fレストラン マ・メゾンからのお知らせ

12 月より病院長に監修いただいた薬膳定食を実施しております。

薬膳定食のコンセプトは「お手軽薬膳」です。身近食材で季節に合った食材を使用しております。

今回 A ランチ、特麺にて薬膳を取り入れ試作いたしました。

薬膳カレー「大豆とごぼうのカレー」と特麺「鶏肉とねぎとクコのみのあんかけそば」です。冬の寒さ対策に生姜をとりいれました。

ぜひご賞味ください。



薬膳カレー「大豆とごぼうのカレー」

編集後記

日増しに暖かになりましたが、皆様いかがお過ごしですか。とはいってもまだ朝夕と寒さが続きますので、日ごろのうがい・手洗いを引き続き励行して体調管理をしていくようお願い致します。

3 月は別れの季節と言われますが、何かがはじまる季節でもあります。お世話なった方に感謝の気持ちと、新しく入る仲間への環境作りをしていきましょう。

世界では、日本を含めた、テロやデモなどがありますが、世界の平和と、皆様にとっても健やかで平穏な毎日であることをお祈り申し上げます。

梅の花や桜の開花など、春めいてくる日々ですが、季節の変わり目なのでくれぐれもご自愛ください。

広報委員会 委員 岡田 圭伍

北部病院だより 第 88 号

平成 27 年 3 月 1 日発行

発行責任者 世良田 和幸（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 北見 明彦（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。